

環境との調和

自然と調和して生きることは、伊勢志摩の暮らしの重要な部分を占めています。このことは、この地域の 2 種類の集落に見てとれます。「里山」は山間の地域で、人々は森林資源を暮らしに活用しています。「里海」は海岸沿いの地域で、住民の生活は海の恵みに支えられています。「里山」と「里海」では、慎重な管理によって高い生産性と生物多様性がもたらされました。持続可能性と保全に重点が置かれており、これらの概念は生物多様性を維持し、この地域の資源を次世代に引き継ぐために不可欠と考えられています。

昔からこの地域にとって重要である漁業と養殖は、今でも地域経済と文化において中心的な役割を担っています。乱獲を防ぐため、多くの条例や基準が制定されています。この地域の特産品であるアワビは、指定された期間中、一定以上の大きさの個体しか獲ることができません。伊勢志摩は真珠養殖の発祥地で、この地域で生産された真珠は真珠養殖業界全体の水準基標とされています。また、伊勢志摩国立公園は、干潟や藻場などの重要な海洋環境の再生にも取り組んでいます。

日本で最も格の高い神社、伊勢神宮を取り囲む鎮守の森は「宮域林」と呼ばれています。長年の間、この森から切り出された木材は、1300 年の歴史を持つ「式年遷宮」という儀式に使われてきました。20 年毎に行われる式年遷宮では、伊勢神宮の主要な社殿が、伝統的な工法を用いて丸ごと前身と全く同じつくり而建て直されます。宮域林はかつて伐採による森林減少の危機にさらされていましたが、200 年計画で現在進行中の森林再生事業により、式年遷宮のための木材の一部を再びこの森から調達できるようになりました。